

処女膜閉鎖による尿閉の1例

市立貝塚病院泌尿器科 (部長: 井口正典)

片山 孔一, 加藤 良成, 井口 正典

市立貝塚病院産婦人科 (部長: 井手辰夫)

長 松 正 章, 井 手 辰 夫

A CASE OF ATRESIA HYMENALIS WITH URINARY RETENTION

Yoshikazu KATAYAMA, Yoshinari KATO and Masanori IGUCHI

From the Department of Urology, Kaizuka Municipal Hospital,

Masaaki NAGAMATSU and Tatsuo IDE

From the Department of Gynecology, Kaizuka Municipal Hospital,

A case of atresia hymenalis with urinary retention was reported. The patient was a 13-year-old female, who visited our clinic complaining of urinary retention and constipation. Examination of the external genitalia revealed atresia hymenalis. Intravenous pyelography showed hydronephrosis was not present. The symptoms disappeared completely after a hymenal incision was made. This case indicates necessity for caution concerning urological symptoms in females.

(Acta Urol. Jpn. 35: 897-899, 1989)

Key words: Atresia Hymenalis, Urinary Retention

緒 言

婦人科領域の疾患の中で、特に年少女子に排尿困難をきたす疾患に、処女膜閉鎖症があげられる。最近われわれは、尿閉を主訴とした処女膜閉鎖症の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 13歳, 中学生 (ID 5267)

初診: 1987年6月29日

主訴: 尿閉

既往歴: 10歳時, 肺炎

現病歴: 1987年6月25日ごろより、便秘、排尿困難、排尿時痛、頻尿が出現し、近医で膀胱炎の診断を受け、内服薬を処方されていた。同6月28日旅行の帰路に尿閉を来し、某院を受診し、導尿により約900 mlの尿の排出をみた。同院よりの紹介で当院泌尿器科を受診した。受診時まで初潮を経験していない。

現症: 身長 161 cm, 体重 61.5 kg, 下腹部に圧痛を認めるほかは、胸腹部に理学的所見を認めず。外陰部視診では、外尿道口は正常位置にあったが、腔口を認めず。腔前庭部に腫脹を認めた (Fig. 1)。



Fig. 1. 手術前の患者の会陰部を示す。外尿道口は正常位置にあり、16 Fr. バルーンカテーテルを留置してある。腔前庭から腔前庭窩にかけて膨隆を認める。

超音波断層法検査所見: 導尿後の経腹的超音波断層法検査では、恥骨下に内容がほぼ均一な嚢胞様腫瘍を認めた (Fig. 2)。

以上の所見により、処女膜閉鎖症による腔溜血腫の診断で即時入院となった。

経過: 入院後の IVP では上部尿路の異常は認めなかったが、骨盤腔内の膀胱陰影に重なる腫瘍陰影を認

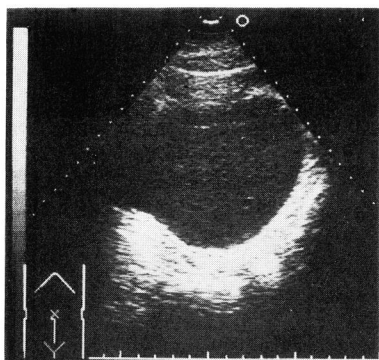


Fig. 2. 導尿後の経腹的超音波断層法検査所見を示す。内容がほぼ均一な嚢胞様腫瘤を認めた。

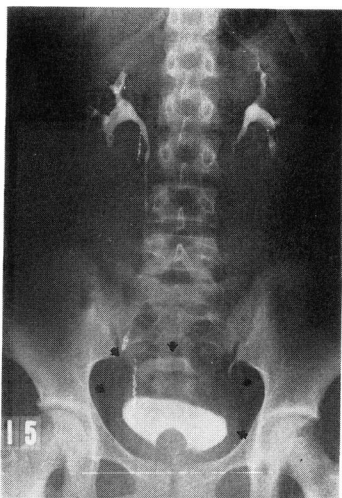


Fig. 3. IVP 所見を示す。膀胱陰影に重なる淡い腫瘤陰影を認める (矢印)。バルーンカテーテル留置後でクランプしてある。

めた (Fig. 3). 血液・尿検査では血膿尿を認めるほかは特に異常を認めなかった。当院産婦人科に紹介したところ処女膜閉鎖症が再確認され、腰麻下で処女膜正中縦切開術を施行した。処女膜は軽度肥厚しており、切開により、暗赤色チョコレート様の凝血のない内容物約 300 ml の排出を認めた。術後第 1 病日に尿流量測定を施行したが、排尿状態は著明に改善した (Fig. 4).

FLOW RATE	
排 尿 量	330ml
最大排尿量	46.0ml/sec
平均排尿量	14.4ml/sec
排 尿 時 間	23sec

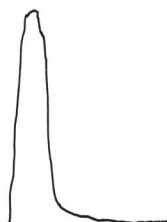


Fig. 4. 術後 1 病日の尿流量測定結果を示す。排尿障害は著明に改善した。

術後 7 日間ほど月経血様の排出が少量あったが、感染所見もなく、便秘も消失した。また、その後の月経も順調である。

考 察

処女膜閉鎖症は大多数は胎生期の sinus urogenitalis の発育異常による先天性の疾患であり、処女膜に穴がなく全部が膜様に閉鎖しているもので、非穿孔性処女膜 imperforate hymen ともいわれ、その発生頻度は 0.014~0.024% である¹⁾。本症そのものは、はじめは全く無症状に経過するが、Everett²⁾によれば一般に思春前期であれば hydrometrocolpos, 月経開始後であれば hematocolpometra となつてはじめて種々の臨床症状が出現する。すなわち、偽無月

Table 1. 排尿障害を主訴とした処女膜閉鎖症

報告者	年齢	主訴	報告年
樋口	12歳	隔月にきたす周期的排尿困難	1968
牧野ら	生後1ヵ月	尿閉・腹部腫瘤	1969
藤野	14歳	尿閉	1969
田村、津久井	12歳	尿閉	1972
永田、多嘉良	生後2日	生下時より排尿なし	1976
永田、多嘉良	14歳	排尿困難・残尿感・下腹部痛	1976
村上ら	11歳	排尿困難	1983
西岡ら	12歳	尿閉	1985
西岡ら	13歳	尿閉	1985
白勢ら	12歳	頻尿・排尿困難	1985
田中ら	14歳	尿閉	1986
田中ら	13歳	尿閉・月経モリミナ	1986
自験例	12歳	尿閉	1987

経, 下部腹痛, 下腹部腫瘍や, 月経のたびごとの周期的下腹部痛(月経モリミナ: Molimina menstrualia), 便秘などが主なものであるが, Calvin & Nichamin³⁾はその58%に尿路症状を認めたことを報告している。尿路症状としては, 排尿困難, 頻尿, 夜尿, 尿意逼迫, 残尿感, 尿閉があげられる⁴⁾。本症における排尿障害の原因は, 溜血腫もしくは溜水腫により腔が伸展し, このため尿道が圧迫されることによると考えられている。

排尿障害を来した処女膜閉鎖症症例は本邦において, 最近20年間で, 1968年の樋口の報告以来, 自験例を含めて13例が報告されている (Table 1)⁵⁻¹²⁾。しかし, 前述の頻度から考えると, それほど稀な疾患ではなく, 婦人科的に扱われている症例が多いのではないかと考えられる。

婦人科的な疾患で尿閉を来しうるものとしては, 本症のように鎖陰に起因するもの, 子宮筋腫の膀胱頸部圧迫によるもの, 巨大卵巣嚢腫によるもの⁶⁾などがあるが, 本症は正確な診断がつきさえすれば, 処女膜切開術により容易に治癒せしめうる疾患であり, 放置すれば hematocolpometra に感染をきたしたり, さらに, 卵管溜血腫 (hematosalpinx) の破裂といったきわめて重篤な状態になりかねない。これまでの本症の症例報告を見るかぎり, 尿路症状のみを訴えて来院するケースが多いようであるが, 特に年少女子ということで, 外陰部視診が怠りがちになると思われる。しかし本症は, 外陰部視診のみでほとんど確診が得られるため, 患者の年齢, 症状を考慮し, 初診時に正確な診断をつけることが重要であると考えられる。

結 語

尿閉をきたした処女膜閉鎖症の一症例を報告した。本症は放置すれば, きわめて重篤な状態になりかねないが, 正確な診断さえつけば, 簡単に治癒せしめうる疾患であり, 初診時の視診の重要性を強調した。

稿を終えるにあたり, 御校閲を賜った恩師栗田孝教授に深謝いたします。

本論の要旨は, 第121回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) 川上 博: 女性性器の奇形, 発育・位置異常, 損傷, 炎症. 現代産科婦人科学大系. 小林 隆編. 第8巻A. 12, 中山書店, 東京, 1971
- 2) Everett HS and Williams TJ: Urology in the female. In: Urology. Edited by Campbell MF and Harrison JH 3rd Ed., vol. 3, W.B. Saunders Co., Philadelphia. 1970
- 3) Calvin JK and Nichamin SJ: Hematocolpos due to imperforate hymen. Am J Dis Child 51: 832-846, 1936
- 4) Gandin MM: Urinary symptoms associated with imperforate hymen. J Urol 86: 665-668, 1961
- 5) 樋口正士: 排尿困難を主訴とした処女膜閉鎖症の1例. 臨泌 22: 549-552, 1968
- 6) 牧野昌彦, 内山記世之, 深津英捷, 石川文易: 尿閉を招来した新生児 Atresia hymenalis. 日泌尿会誌 60: 588, 1969
- 7) 田村瑞穂, 津久井 厚: 急性尿閉を呈した処女膜閉鎖症の1例. 臨泌 26: 325-327, 1972
- 8) 永山一夫, 多嘉良 稔: 排尿障害を主訴とした処女膜閉鎖症の2例. 臨泌 30: 795-798, 1976
- 9) 村上弘一, 生水真紀夫, 飯田和質: 処女膜閉鎖による月経モリミナ症例. 日不妊会誌 28: 121, 1983
- 10) 西岡 伯, 朴 英哲, 郡健二郎, 秋山隆弘, 栗田孝: 急性尿閉を呈した処女膜閉鎖症の2例. 西日泌誌 48: 983-985, 1986
- 11) 白勢克彦, 山田外記, 鶴見和弘, 塚原嘉治: 排尿障害を伴った Atresia hymanalis の一例. 日泌尿会誌 76: 289-290, 1985
- 12) 田中宏樹, 岩崎 皓, 広川 信, 小暮興正, 新美洋一, 丸山克久: 尿閉を主訴とした処女膜閉鎖症の2例. 日泌尿会誌 77: 339, 1986

(1988年5月10日受付)